



最新の賃貸経営お役立ち情報

USAGI通信

2009.3.4 No. 414

大学生暮らし切りつめ

生協連調べ 2人に1人「経済格差を感じる」

大学生で経済格差を感じているのは一人に一人、今後の暮らし向きが「苦しくなる」とみている人も三人に一人に上ることが二十五日、全国大学生生活協同組合連合会の学生生活実態調査で分かった。仕送りやアルバイト収入が減る中、食費などを切りつめている回答が目立った。急激な景気の減速で、一年生や二年生の間でも就職への不安が急増していることも浮かび上がった。

食費30年前並み／就職不安も拡大

九人から回答を得た。下宿生の一カ月の収入は十二万八千八百九十円で、前年に比べて五千三百七十円、四・〇%の大幅なマイナスとなった。仕送りが七万七千五百八十円で二千三百五十円減、アルバイトも二万四千六百円で二千八百八十円減った。仕送りがゼロの下宿生は全体の八・三%。五万円未満は二〇・七%で初めて二割を超えた。下宿生の支出は「貯金」を除くすべての項目で減少。食費は二万四千四百三十円と、一九七六年の二万二千九百七十円に迫る低水準となった。経済格差を感じている

かとの問いには「切実に感じている」が八・四%、「ある程度感じている」が三七・六%で、計四六・〇%が格差を感じていた。今後の暮らし向きの見通しでは三二・二%が「苦しくなる」とみている。「就職に不安を感じている」と答えたのは、三年生が前年より一・七%高い八二・四%、二年生が四・五%高い八〇・二%、一年生が六・九%高い七四・六%だった。全が広がっている」とみて国大学生協連は「一年生

2009.2.26(金) 日本経済新聞より

下宿生の経済格差は深刻な状況です。引き続き、安心・安全・快適かつ安価な(コストパフォーマンスの良い)物件に入居希望が集中するものと思われます。

「就職に不安を感じている」と答えたのは、三年生が前年より一・七%高い八二・四%、二年生が四・五%高い八〇・二%、一年生が六・九%高い七四・六%だった。全が広がっている」とみて国大学生協連は「一年生



賃貸住宅 仲介・管理のスペシャリスト

GHG 学生ハウジンググループ